

# GS グローバル・ ビッグデータ 投資戦略

Aコース(為替ヘッジあり)  
Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／株式



# GS GLOBAL BIG DATA STRATEGY

お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。「投資信託説明書(交付目論見書)」は販売会社までご請求ください。

■本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した販売用資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。  
■本ファンドは値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。■投資信託は、金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。■投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うことになります。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

■ 設定・運用は



商号等 株式会社中国銀行  
登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号  
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

商号等 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号  
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

## 持続的な成長を遂げてきた世界経済。

だからこそ、長期的な資産形成の中核として、  
評価されているグローバル株式。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントは、  
長い年月をかけて開発してきた独自の運用モデルに、  
ビッグデータ解析を導入することで、  
あふれる情報の中から投資への示唆を見出し、  
膨大な企業数を誇るグローバル株式市場から、  
ポートフォリオを構築する。



グローバル株式



ビッグデータ/AI(人工知能)\*

Goldman  
Sachs Asset  
Management

ゴールドマン・サックス・  
アセット・マネジメント

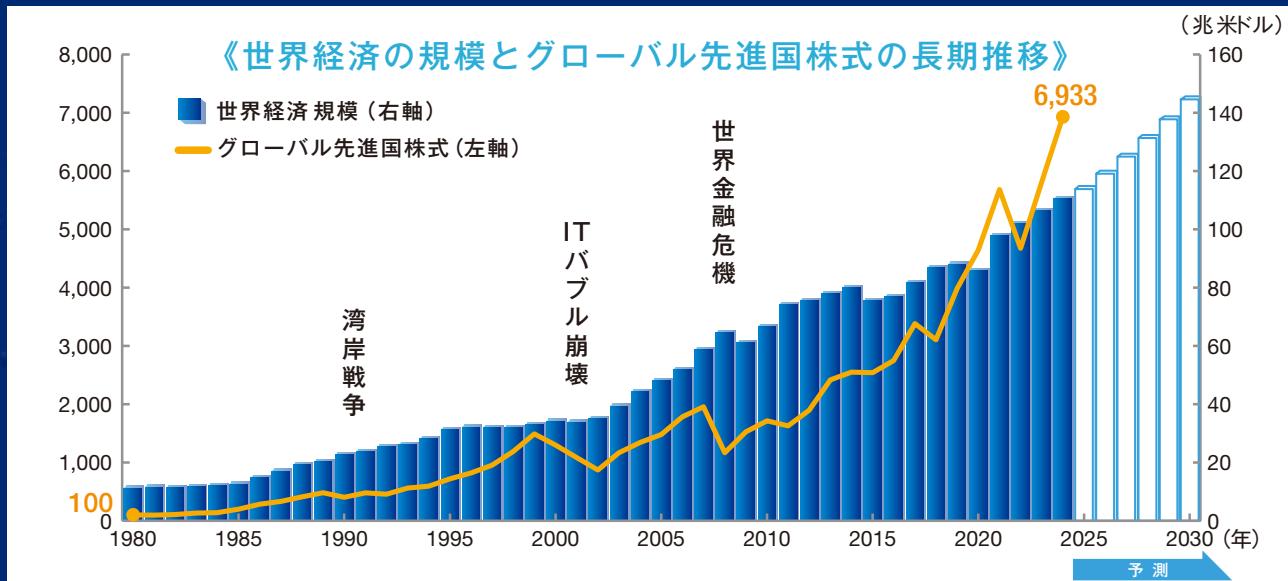
# GSグローバル・ビッグデータ投資戦略

\*詳細は9ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」もあわせてご覧ください。

# 長期的な資産形成の力となる成長資産 グローバル先進国株式

## ▶ グローバル先進国株式へ投資し、世界経済の成長の果実を取りにいく

グローバル先進国株式市場は、これまで一時的な調整局面はあったものの、長期的に見ると世界経済の成長に伴い上昇を遂げてきました。



期間：世界経済規模 1980年～2030年(2025年以降は2025年4月時点の予測値)、グローバル先進国株式 1980年～2024年

出所：IMF(国際通貨基金)World Economic Outlook, April 2025、MSCIのデータを基にゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成

世界経済規模：名目GDP グローバル先進国株式：MSCIワールド・インデックス(税引前配当込み/米ドル・ベース) グローバル先進国株式は1980年末を100として指数化

上記は過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。経済、市場等に関する予測は本資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。

上記の「世界経済」には、新興国など本ファンドの投資対象以外の国も含まれておりますのでご留意ください。

MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他すべての者(以下総称して「MSCI当事者」といいます)は、MSCIの情報について一切の保証(独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません)を明示的に排除します。

MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害(逸失利益を含みます)およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。

## ▶ <ご参考>ビッグデータが日々生成される世界の株式市場

世界中には約5万社の上場企業が存在し、企業を取り巻く大量のデータが日々生成されています。ビッグデータが飛躍的に拡大する現代においては、グローバル株式市場に投資を行う上で、ビッグデータの有用性が高まっています。また、AI(人工知能)の進化がビッグデータ解析を可能にしています。



2025年2月現在 出所:WFE (World Federation of Exchange(国際取引所連合))

上記は過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

上記はあくまでも世界の株式市場についてご参考として示しているものです。「世界の上場企業」には新興国企業など本ファンドの投資対象以外の企業も含まれておりますのでご留意ください。

# 飛躍的に拡大し、増え続けるビッグデータ

現在、生成されるビッグデータは、コンピューターが処理しやすい数値データだけではなく、文章や画像など多様なデータが多くを占めるようになっており、Volume(量)、Velocity(速度)、Variety(種類)の3次元的に拡張しています。

## ビッグデータは「3つのV」で3次元的に拡張

### 世界で日々生成される多様なデータ



Variety  
(種類)

### 世界で1分間に作り出される大量のデータ



出所：ドーム社の記事(2024年)を基に  
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成

Volume  
(量)

世界で急速に増加する  
デジタルデータ(予測)

Velocity  
(速度)

132  
ゼタバイト

2023年

394  
ゼタバイト

2028年

1ゼタバイト=10<sup>12</sup>ギガバイト

出所：Worldwide IDC Global DataSphere Forecast, 2024-2028

上記はビッグデータやAIについて理解を深めるため的一般的な情報提供を目的としており、本ファンドの運用を説明したものではありません。  
個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、当該個別銘柄の売却、購入または継続保有の推奨を目的とするものではありません。  
上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。  
経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。

# ビッグデータ時代を加速させるAI

ビッグデータの飛躍的な拡大により、その解析技術としてAIの重要性も高まっています。AIの進化により、これまでのテクノロジーでは解析が難しかった多様なデータを、投資戦略に活用できる時代となりました。

## AI(人工知能)とは

- 人工的に、コンピューター上などで人間と同様の知能を実現させようとする試みや、そのための一連の基礎的な技術のことです。
- 人工知能に関連する研究分野には、「機械学習\*」や「深層学習\*」といった基礎分野と、「画像認識」や「音声認識」、「自然言語処理」といった応用分野があります。

\*機械学習とは、データから反復的に学習することで潜在するパターンを発見し、それを新たなデータに当てはめることで、判断や将来の予測を行う技術のことです。

深層学習とは、多層構造のニューラルネットワーク(人間の脳の神経回路の仕組みを模したモデル)を用いた機械学習の一種のことです。

多様なデータ例

ソーシャル・メディア

さまざまな情報やニュースが流れる  
ソーシャル・メディアから最新のトレンドを抽出

The illustrations show three examples of AI processing data. 1. A smartphone screen displaying a news feed with various articles and user profiles. A yellow callout bubble points to one of the user icons with the text 'ソーシャル・メディア'. 2. A smartphone screen showing a user profile with a pink background and a network graph of three users connected by green lines. 3. A smartphone screen displaying a news article with several small user profile pictures. A yellow callout bubble points to the bottom right of the screen with the text 'AIを活用した  
自然言語処理により、  
文章を読み込む'.

上記は、例示をもって理解を深めていただくことを目的としたものであり、上記のイラストはイメージです。

# ビッグデータ/AIを活用した革新的な投資戦略

## 分析 1 リサーチ・レポート

AIの自然言語処理技術を利用し、リサーチ・レポートの文章の変化からアナリストの意図を読み取り、将来のレーティング変更を先取りします。

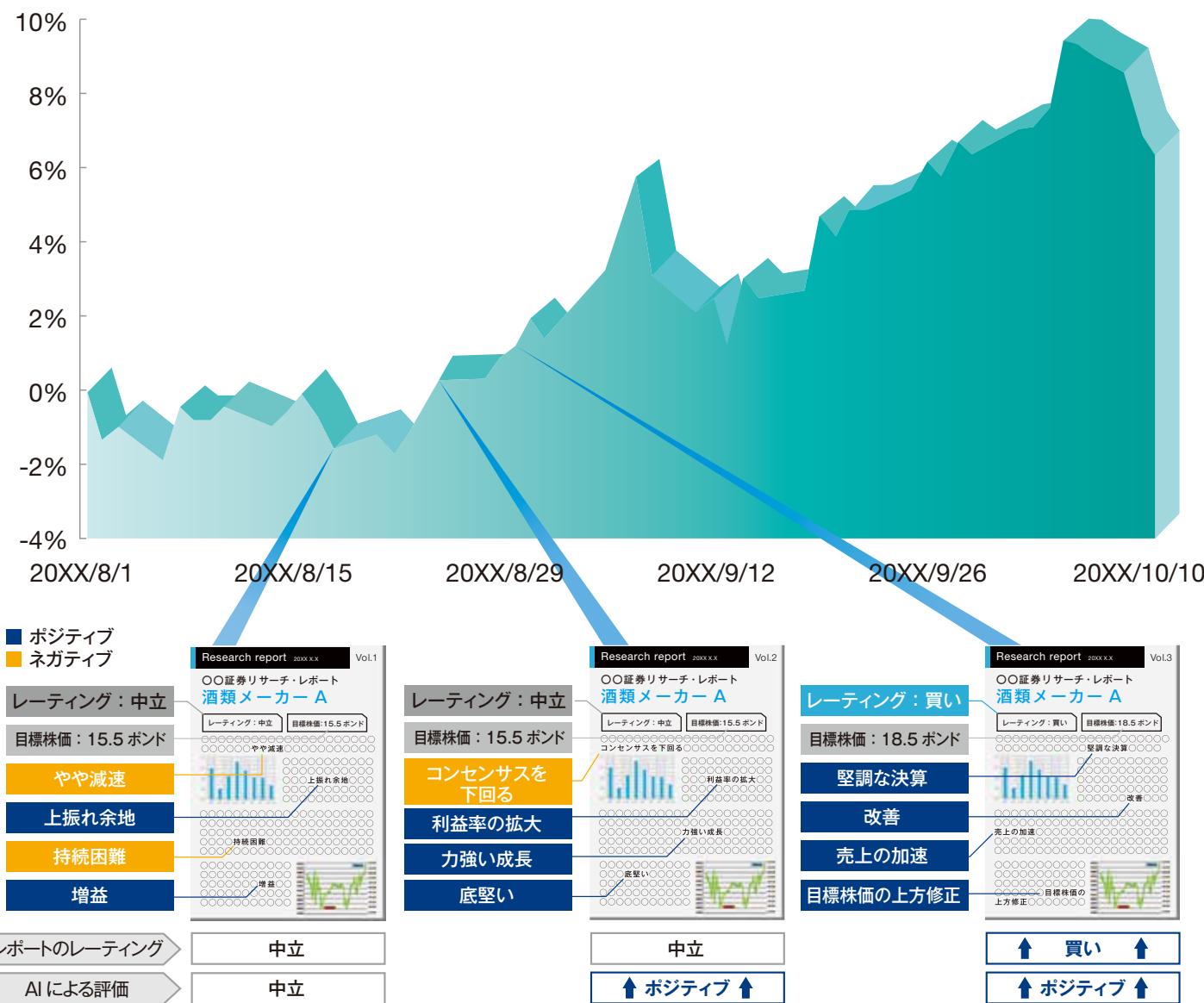
120万本以上の  
レポートから

## 文章の意図を見抜く

自ら学習し構築したアルゴリズム（判定ルール）に基づき、レーティングには表れないアナリスト（筆者）の考えの微妙な変化をキャッチ。

アナリストの意図を予測しいち早くポジティブ評価に転換。アナリストが買い推奨に転じる前に株価上昇の恩恵を享受。

### ある企業の株価のリターン（イメージ）\*



\*ある企業の20xx年7月末の株価を基準に、20xx年10月10日までの日々のリターンを算出したイメージ図です。

出所：ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

上記は例示をもって理解を深めていただくことを目的としたものです。上記のような運用が実現できることを保証するものではありません。

※9ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI（人工知能）の活用について」もあわせてご覧ください。

# を支えるポイント

## 分析2 ウェブ・アクセス動向

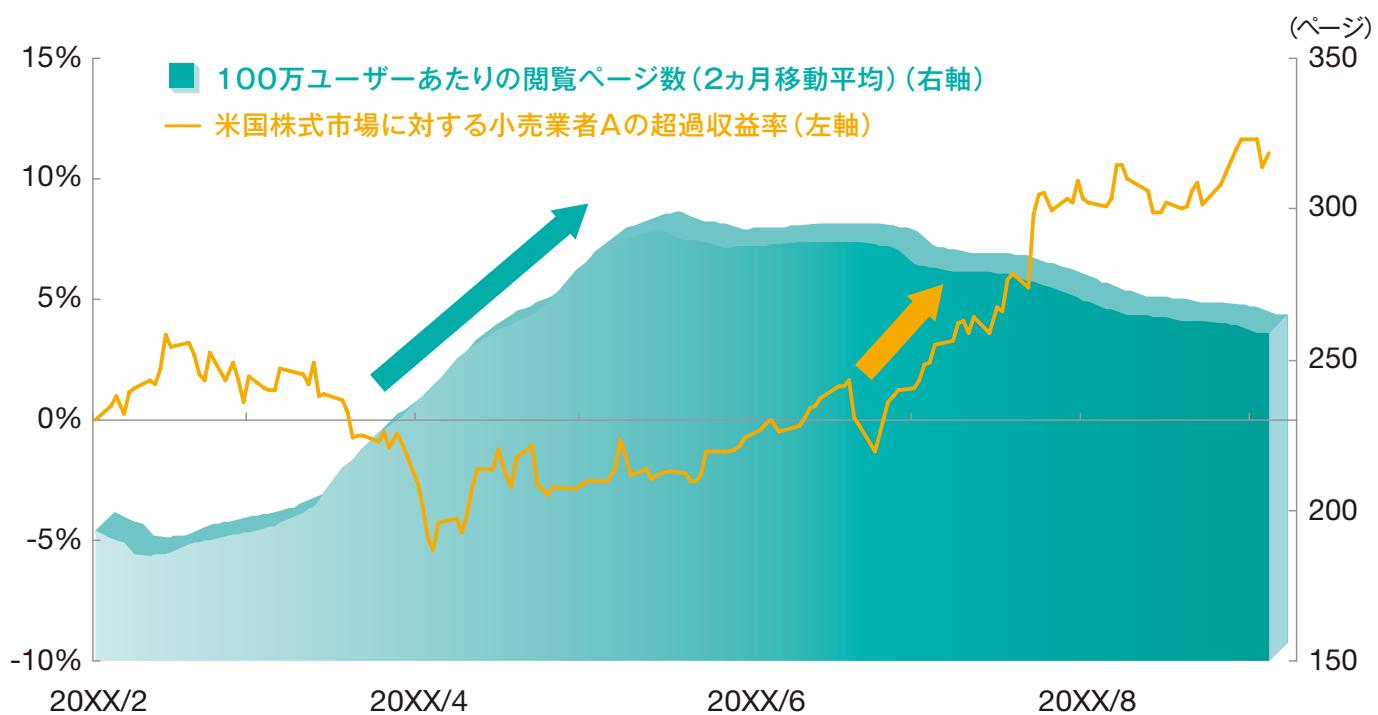
一般消費者向けビジネスを営む企業では、企業ウェブサイトへのアクセス動向のトレンドを分析することにより、収益性の予測に活用します。

## ウェブへのアクセス動向で 収益トレンドも予想

小売業などの一般消費者向けに事業を営む企業では、企業ウェブサイトへの閲覧ページ数が増加すると、販売増加に伴い収益性が向上する傾向があります。

ウェブへのアクセス数の変化をいち早く捉えることで、その後の株価トレンドを予測することが可能になります。

### 米国的小売業者A



出所：アレクサ、ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

上記はあくまでも例示であって、すべての一般消費者向けにビジネスを営む企業にあてはまるものではありません。上記のような運用が実現できることを保証するものではありません。

# 脱炭素社会やESGに着目した運用例

▶ ポートフォリオの低炭素化：投資している企業全体の温室効果ガス排出量が市場平均\*対比で25%以上下回ることを目標に投資比率を決定

- 脱炭素社会の到来を見据え、本ファンドの運用では二酸化炭素などの温室効果ガス排出量が多い企業への投資を削減する取り組みを導入しています。
- サプライチェーンを考慮した各企業の温室効果ガス排出量と、エネルギー・鉱山会社が保有する石油・ガス・石炭などの化石燃料の埋蔵量を独自に算出します。そして、排出量と埋蔵量が市場平均と比べ25%以上下回ることを目標に、組入銘柄とその投資比率を決めます。

## 1. 温室効果ガス排出量

(現時点で企業が排出する温室効果ガス)

## 2. 化石燃料埋蔵量

(将来、採掘・燃焼されると生じる温室効果ガス)

▶ ESGデータの企業評価での活用例

- 環境(Environmental)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)（「ESG」といいます。）への注目が高まるなか、企業のESGの取り組みは長期的な企業業績にも影響を及ぼすと考えられます。
- 本ファンドの運用ではESGデータを幅広く調査しており、ある種のESGデータでの評価が高い結果、良好なパフォーマンスが期待される企業に注目し投資判断の一部として利用しています。

### 分析例

#### 環境に与える「負荷」が少ない企業を評価

企業活動による、温室効果ガスの排出・廃棄物・天然資源の採掘・水の使用などによる環境への直接的な影響を「環境への負荷」として定義



#### 風評リスクの高い企業を分析

さまざまな投資地域における多様な言語のニュースやレポートなどを利用し、企業の事故、不祥事などのリスクを測定



#### 従業員が満足して働いている企業を評価

米国企業の従業員と元従業員による膨大な量の評価から、総合的な従業員の満足度、企業文化、従業員による経営陣への評価を分析



\*参考指標であるMSCIワールド・インデックス 当該参考指標は投資対象ファンドの参考指標であり、本ファンドのベンチマークや参考指標ではありません。上記は例示を目的とするものです。写真はイメージとして掲載するものです。上記は現行モデルに基づくものであり、運用モデルの改良・更新は継続的に行われております。したがって、投資プロセスは変更される場合があります。また、その目的を達成できる保証はありません。上記は本ファンドが主要投資対象とする外国投資証券について説明したものです。

※9ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」もあわせてご覧ください。

# 35年超の歴史を誇る、 運用モデルに携わる専門集団

## —ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント計量投資戦略グループ—

歴史あるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの 計量 株式 戦 略

1989年

- ▶ 米国株式で計量株式戦略を開始

1995年

- ▶ GTAA(グローバル・タクティカル・アセット・アロケーション)戦略を開始

1996年

- ▶ 先進国株式の運用開始

2006年

- ▶ 新興国株式の運用開始

2008年

- ▶ ビッグデータ/AIを活用した評価基準を運用モデルに導入開始

現在

- ▶ 日々ビッグデータ/AIを活用した評価基準を研究・開発・改良し、モデルに隨時導入

### 新しい時代の幕開け

ゴールドマン・サックス・グループの総合力と革新的な運用ソリューション

**Goldman Sachs Asset Management**

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

- 1988年の設立以来、世界有数の資産運用会社として、世界の機関投資家、ファイナンシャル・アドバイザー、個人投資家等に投資および助言サービスを提供
- 150年超の歴史を有するゴールドマン・サックス・グループのノウハウと世界を結ぶグローバル・ネットワークを活用し、お客様のニーズに対応したサービスを提供
- 世界約30カ国に拠点を配し、受託資産残高は約440兆円\*

\*1米ドル=157.160円にて円換算 2024年12月末現在

# ファンドの特色

POINT  
01

日本を含む先進国の株式を主な投資対象とし、信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。

POINT  
02

ビッグデータやAI(人工知能)を活用したゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて幅広い銘柄に分散投資します。

POINT  
03

為替ヘッジありのAコース、為替ヘッジなしのBコースの選択が可能です。

■本ファンドは、一般的にビッグデータ分析の対象となる企業開示情報や企業ニュースなどが豊富にあり、またそのクオリティの高い先進国企業を投資対象とします。

※運用においてビッグデータやAIなどを利用しますが、ビッグデータやAIなどのテクノロジー関連企業に特化して投資するものではありませんのでご留意ください。

※Aコースは、MSCIワールド・インデックス(円ヘッジ・ベース)、Bコースは、MSCIワールド・インデックス(円ベース)を運用上の参考指標とします。  
※為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。Aコースは、原則として、実質的な外貨建資産について対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、委託会社の裁量により実質外貨建資産のすべてに対してヘッジが行われるとは限りません。また、純資産総額によっては一部の実質外貨建資産について為替ヘッジを行わず、為替ヘッジを行わない比率は純資産総額の減少に応じて大きくなります。Aコースへの投資であっても為替変動リスクが伴いますのでご留意ください。

Bコースは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※本ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。本ファンドの主要投資対象は、「ゴールドマン・サックス・ファンズS.I.C.A.V.-ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ」です。

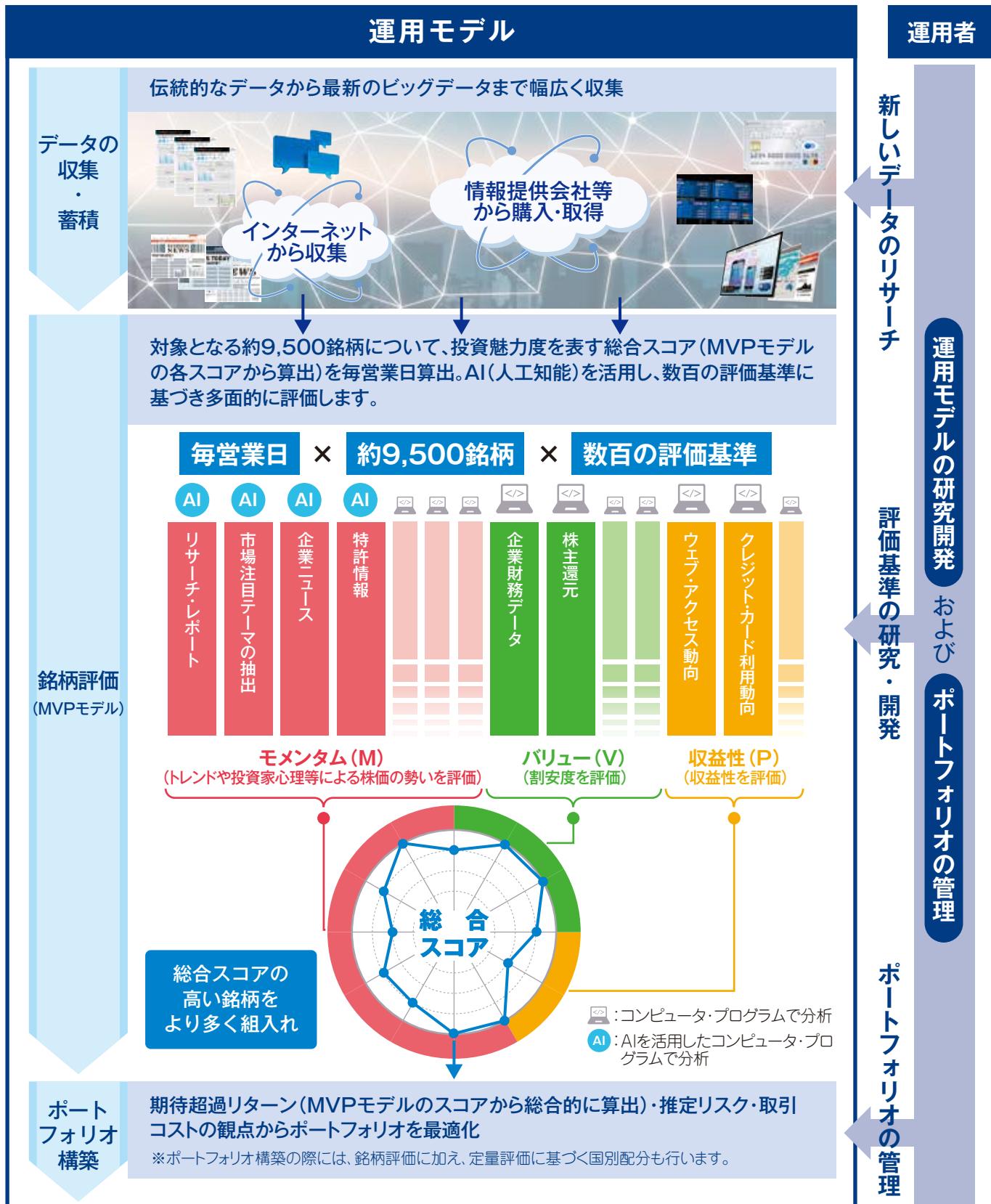
※市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

■計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量モデルでは、投資対象銘柄について、数多くの多面的な評価基準に基づいて評価し、組入銘柄を決定しています。これらの評価基準の開発において、財務諸表などの伝統的なデータに加え、ニュース記事やウェブ・アクセス量などの非伝統的データも活用されます。ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントではこれらのデータ(ビッグデータを含みます。)の活用を競争力の源泉とみなしており、近年その利用割合を増やしているだけでなく、そのデータの種類や利用方法も進化しています。機械学習に代表されるAI技術は、一部の評価基準においてデータ分析プロセスで活用され、特にアナリスト・レポートやニュース記事等のテキストデータを読み込む評価基準において活用されます。最終的な評価基準の選定および組入銘柄の決定は、計量投資戦略グループのシニア・ポートフォリオ・マネジャーが監督しています。

# 投資プロセス

最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データ等をもとに、モメンタム(Momentum)・バリュー(Value)・収益性(Profitability)の投資テーマを通じた数百もの評価基準(MVPモデル)に基づき、投資対象候補銘柄すべての投資魅力度を総合的に評価した上で、ポートフォリオの最適化を図ります。

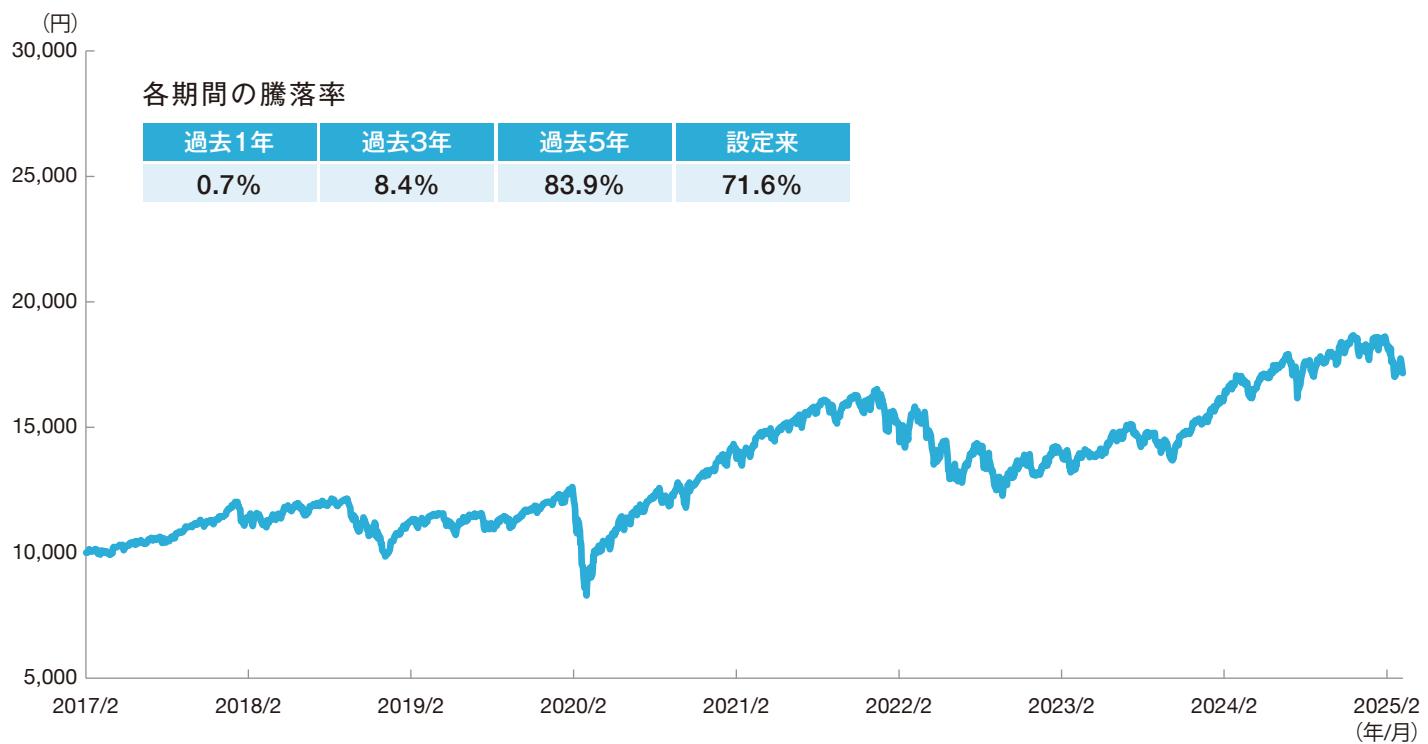


上記は現行モデルに基づくものであり、運用モデルの改良・更新は継続的に行われております。上記の投資プロセスは変更される場合があります。  
上記がその目的を達成できる保証はありません。上記は概念図であり、実際の評価の割合等とは異なることがあります。上記は本ファンドが主要投資対象とする外国投資証券について説明したもので

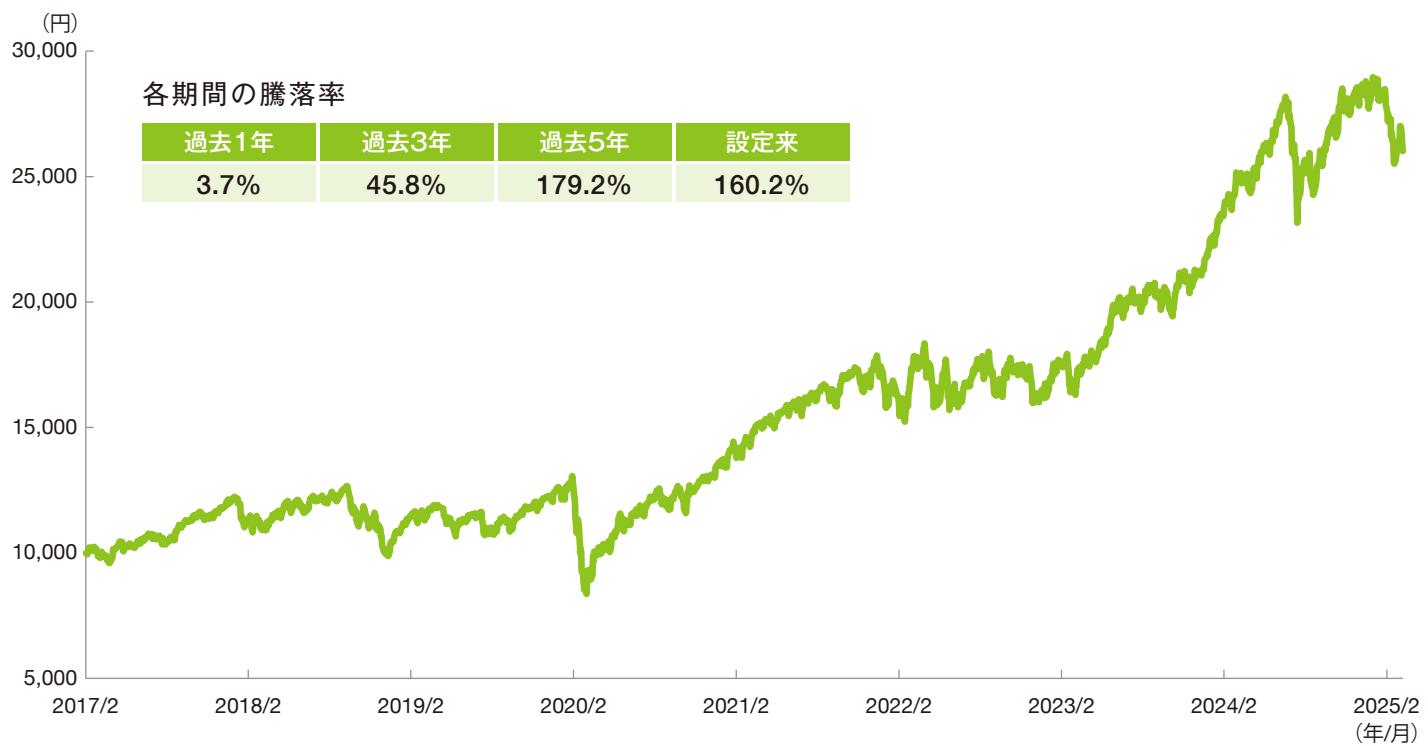
※9ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」もあわせてご覧ください。

# ファンドの運用実績

## 《A コース（為替ヘッジあり）の分配金再投資基準価額の推移》



## 《B コース（為替ヘッジなし）の分配金再投資基準価額の推移》



期間:2017年2月24日(設定日)~2025年3月31日(日次ベース)

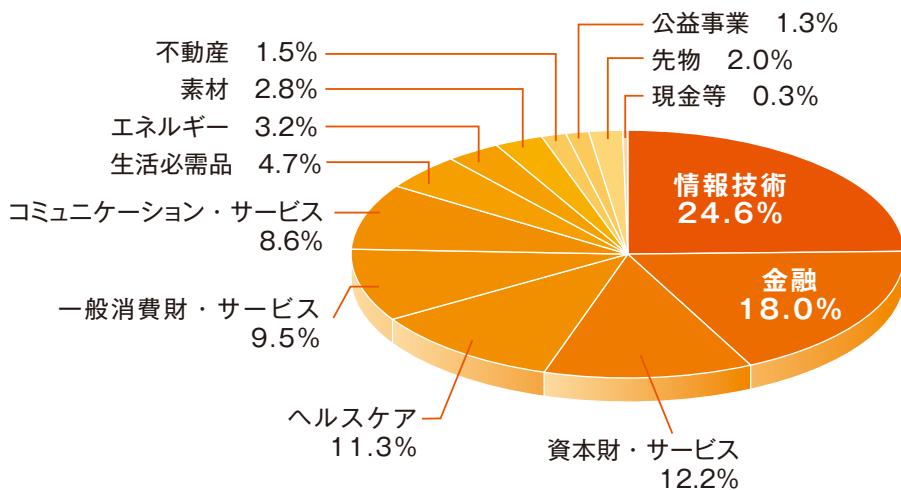
出所:ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

過去の運用実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資価値および投資によってもたらされる収益は上方にも下方にも変動します。この結果、投資元本を割り込むことがあります。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

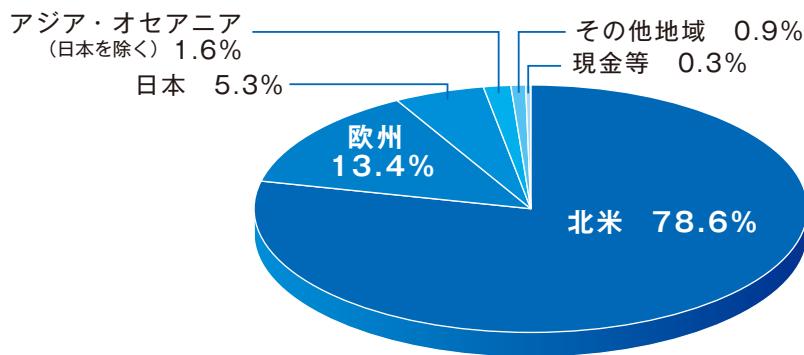
上記の分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額は、本ファンドの決算時に収益の分配があった場合に、その分配金(税引前)で本ファンドを購入(再投資)した場合の基準価額です。

# 投資対象ファンド<sup>\*1</sup> のポートフォリオ概要

## 《セクター<sup>\*2</sup> 別構成比率》



## 《地域別構成比率》



## 《投資対象ファンド<sup>\*1</sup>の組入上位10銘柄(組入銘柄数:348銘柄)》

銘柄名	国	セクター <sup>*2</sup>	構成比率
1 アップル	米国	情報技術	4.6%
2 マイクロソフト	米国	情報技術	3.9%
3 エヌビディア	米国	情報技術	3.6%
4 アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	2.8%
5 メタ・プラットフォームズ	米国	コミュニケーション・サービス	2.5%
6 アルファベット クラスC	米国	コミュニケーション・サービス	1.4%
7 テスラ	米国	一般消費財・サービス	1.4%
8 モンスター・ビバレッジ	米国	生活必需品	1.3%
9 ファイサーブ	米国	金融	1.3%
10 ブロードコム	米国	情報技術	1.3%

2025年3月末現在 出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

\*1 投資対象ファンドとは、本ファンドの投資対象ファンドであるルクセンブルク籍外国投資証券(米ドル建て)「ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V.-ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ」を指します。

\*2 Global Industry Classification Standard(GICS®)(世界産業分類基準)のセクター分類を使用しています。

上記は過去のデータであり、本ファンドの将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。上記構成比率は投資対象ファンドの純資産総額に対する比率であり、四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

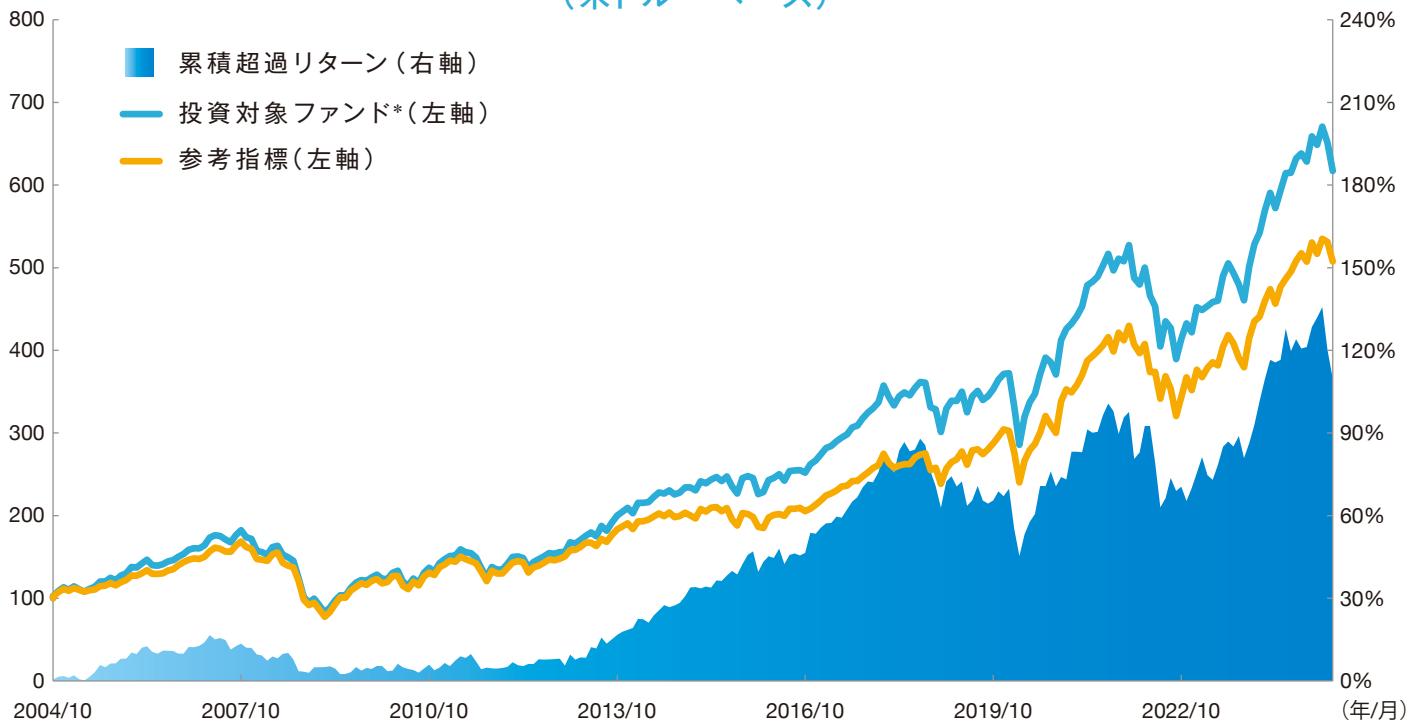
上記はあくまでも過去の一時点における組入銘柄であり、将来にわたって引き続き当該銘柄を保有、または保有しないことを保証するものではありません。また、個別銘柄の売却、購入または継続保有等を推奨するものではありません。

# ご参考：投資対象ファンド\*の運用実績

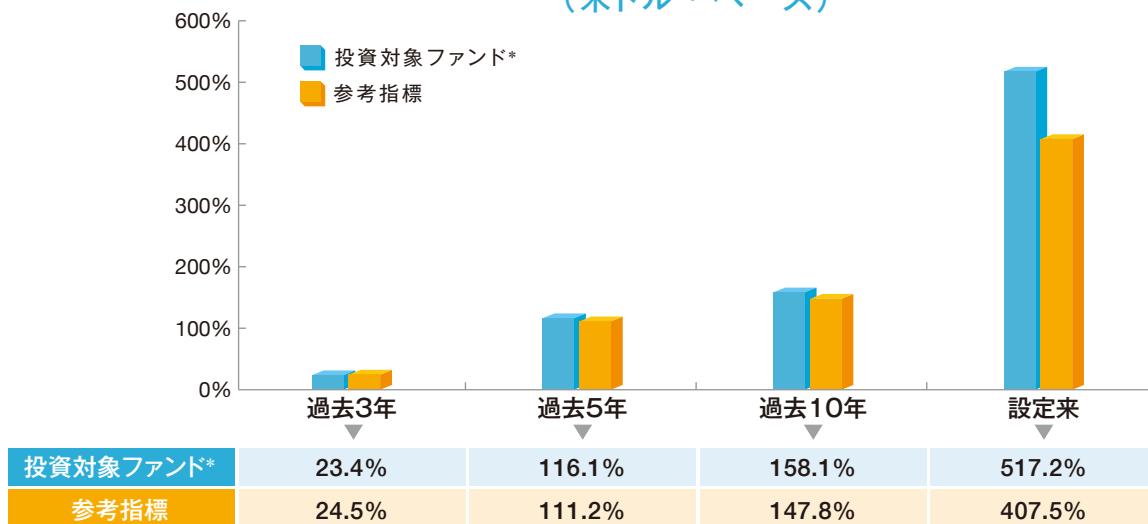
下記は、投資対象ファンド\*の過去の運用実績(費用控除前)であり、本ファンドの運用実績ではなく、本ファンドの将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。下記データにおいては、本ファンドの信託報酬等の諸費用は考慮されておらず、また、米ドル・ベースのデータを用いて計算しているため、円ベース、円ヘッジ・ベースのデータとは動きが異なります。為替ヘッジを行うコースでは、ヘッジ・コストがかかることにもご留意ください。  
※9ページの「計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について」もあわせてご覧ください。

▶ 投資対象ファンド\*は2004年10月に設定されました。その後も、2008年にビッグデータやAIを導入して以降も随時改良を進めることにより、累積超過リターンはプラスを維持しています。

## 《(ご参考)投資対象ファンド\*のパフォーマンス》 (米ドル・ベース)



## 《(ご参考)各期間の騰落率》 (米ドル・ベース)



期間:(上グラフ)2004年10月14日(設定日)~2025年3月末(月次ベース)、投資対象ファンドと参考指標は設定日前日を100として指数化。累積超過リターンは、その時系列の動きをよりわかりやすく見せるため、スケールを拡大して表示しています。(下グラフ)2025年3月末現在 出所:MSCIのデータを基にゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成 参考指標:MSCIワールド・インデックス(税引後配当込み)当該参考指標は投資対象ファンドの参考指標であり、本ファンドのベンチマークや参考指標ではありません。

\*投資対象ファンドとは、本ファンドの投資対象ファンドであるルクセンブルク籍外国投資証券(米ドル建て)「ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. - ゴールドマン・サックス・グローバルCORE エクイティ・ポートフォリオ」を指します。

# 投資リスク

## 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さんに帰属します。

## ▶ 主な変動要因

### 株式投資リスク（価格変動リスク・信用リスク）

本ファンドは、日本を含む先進国の株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動等のさまざまなリスクが伴うことになります。本ファンドの基準価額は、株式等の組入有価証券の値動きにより大きく変動することがあり、元金が保証されているものではありません。特に世界の株式市場の下落局面では本ファンドの基準価額は大きく下落する可能性が高いと考えられます。一般に、株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況に応じて変動します。したがって、本ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があります。現時点において価格が上昇傾向であっても、その傾向が今後も継続する保証はありません。また、発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

### 株式の流動性リスク

本ファンドの投資対象には、流動性の低い株式も含まれています。このような株式への投資は、ボラティリティ（価格変動率）が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があることから、大きなリスクを伴います。

### 為替変動リスク

本ファンドは、日本を含む先進国の株式を投資対象とする外貨建ての投資信託証券を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には為替変動リスクが伴います。とりわけ、対円で為替ヘッジを行わないBコースでは為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。Aコースは、対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジ・コストがかかります（ヘッジ・コストは、為替ヘッジを行う通貨の金利と円の金利の差が目安となり、円の金利の方が低い場合、この金利差分収益が低下します。）。為替ヘッジは実質的な外貨建資産に対して行われますが、委託会社の裁量により実質外貨建資産のすべてに対してヘッジを行うとは限りません。また、Aコースの純資産総額によっては一部の実質外貨建資産について為替ヘッジを行わず、為替ヘッジを行わない比率は純資産総額の減少に応じて大きくなります。そのため、Aコースへの投資であっても為替変動リスクが伴います。

## ▶ 留意点

### 計量運用に関する留意点

本ファンドでは、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量モデル群を用いた複数の戦略が実行されます。ビッグデータやAIの利用を含む計量モデルに従う運用がその目的を達成できる保証はなく、ボトムアップ手法によるアクティブ運用やパッシブ運用など他の運用手法に対して優位性を保証するものではありません。なお、計量モデルにはビッグデータやAI以外の定量要素も利用されます。計量モデルの改良・更新は継続的に行われており、ビッグデータやAIの利用方法については将来変更されることがあります。計量モデルは仮説に基づき構成されたものであり、モデルにより選択された銘柄や市場動向は必ずしもこの仮説が想定する動きを示さない場合があります。また、ある時点でモデルが有効であったとしても、市場環境の変化等により、その有効性が持続しない可能性もあります。このような場合には、本ファンドの基準価額に影響を及ぼし、本ファンドのパフォーマンスが参考指標を下回ったり、投資元金が割り込む可能性があります。

#### ※収益分配金に関する留意点

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

また、投資家のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

# お申込みメモ

くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。  
お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせください。

## お申込みメモ

購入単位	販売会社によって異なります。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して6営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	英国証券取引所、ニューヨーク証券取引所もしくはルクセンブルク証券取引所の休業日またはロンドン、ニューヨークもしくはルクセンブルクの銀行の休業日および12月24日(以下「ファンド休業日」といいます。)
申込締切時間	「ファンド休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時30分までに販売会社所定の手続きが完了したものを持当日の申込受付分とします。 ※販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にご確認ください。
信託期間	原則として無期限(設定日:2017年2月24日)
繰上償還	各ファンドについて純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には繰上償還となる場合があります。 また、主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合には、信託を終了します。
決算日	毎年3月10日(ただし、休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回(3月)の決算時に原則として収益の分配を行います。販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
信託金の限度額	各ファンドについて1兆円を上限とします。
スイッチング	スイッ칭(乗換え)については、販売会社にお問い合わせください。 ※スイッキングの際には換金(解約)されるファンドに対して換金にかかる税金が課されることにつきご留意ください。
課税関係 (個人の場合)	課税上は株式投資信託として取扱われます。 本ファンドは、少額投資非課税制度(NISA)の「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の適用対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。 原則、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)が課税の対象となります。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、 <b>3.3%(税抜 3%)を上限</b> として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
換金時	信託財産留保額	ありません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して <b>年率 1.3475%(税抜 1.225%)</b> ※運用管理費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	信託事務の諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われるほか、組入れ投資信託証券の信託事務の諸費用が各投資信託証券より支払われます。
随時	その他の費用・手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料(組入れ投資信託証券において発生したものを含みます。)はファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 委託会社その他関係法人の概要について

●委託会社:ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(信託財産の運用の指図等を行います)

●受託会社:みずほ信託銀行株式会社(信託財産の保管・管理等を行います)

●販売会社(本ファンドの販売業務等を行います)

販売会社については、下記の照会先までお問い合わせください。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

電話:03-4587-6000(受付時間:営業日の午前9時から午後5時まで)

ホームページ・アドレス:www.gsam.co.jp